

令和2年度
事業判定結果報告書

令和2年11月26日

志木市事業判定会

【 事業判定会 】

- 1 開催日時
令和2年11月14日（土） 午前10時00分～午後3時35分
- 2 場所
いろは遊学館 ホール
- 3 対象事業及び概要

No.	担当課	事業名称及び事業概要	担当課の要求
1	市民活動推進課	<p>コミュニティふれあいサロン設置支援事業</p> <p>地域住民等が気軽に集える交流の場のさらなる拡大を目指し、町内会館を活用したコミュニティふれあいサロンを、定期的に開設する町内会に対して補助を行うものである。 (週1回開催の場合、1年間あたり最大10万円) (週2回開催の場合、1年間あたり最大20万円)</p>	新規
2	学校教育課	<p>学力アップサポート事業 (サマースクール・ウインタースクール)</p> <p>タブレット端末を活用し、希望する中学1～3年生（ウインタースクールは中学3年生のみ）を対象に、夏休み及び冬休み期間中の5日間程度、市の公共施設等において、国語・数学・英語の復習を中心とした学習支援教室を、民間講師等に業務委託して実施するものである。 タブレット端末の活用により、苦手分野の克服など、生徒一人ひとりの習熟度に応じた学習を実現するとともに、分からない内容は講師等に直接質問し、個別に解説を受ける体制とすることで、きめ細かな学習支援が行えるようにするものである。</p>	拡充
3	子ども支援課	<p>児童相談システム導入事業</p> <p>児童虐待にかかる相談記録や統計、資料作成等の事務の効率化を図るとともに、健康増進センターや教育委員会等と迅速な情報共有を図ることで、関係機関が連携したケースへの早期介入などを可能とするため、児童相談システムを新たに導入するものである。</p>	新規
4	健康政策課	<p>子宮頸がん検診未受診者対策事業（自己採取HPV検査）</p> <p>国民健康保険に加入する満30歳～66歳未満の市民のうち、平成27年度から実施している子宮頸がんHPV併用検診の未受診者を対象に、子宮頸がん検診受診のきっかけづくりを目的として、自己採取HPV検査*を実施するものである。 ※ 自己採取HPV検査：専用キットを使って、自身で子宮頸部から検体を採取し、HPV感染の有無を調べる検査です。</p>	新規

事業No.2

事業名： 学力アップサポート事業

(サマースクール・ウィンタースクール)

担当課： 学校教育課

1. 判定結果

事業内容を抜本的に見直す

2. 事業判定会コメント

サマースクールや中3チューターなど、通常授業以外の学力向上の取組については、今後も必要である。しかし、希望する全ての生徒が参加することができないという運用は、公平性を欠くと考え。また、中3チューターには、家庭の学習環境等に課題のある生徒の居場所づくりという側面もあることから、受講者が少ないという理由で廃止することも乱暴に感じる。さらに、生徒の学習面での自立を促すことも目的の1つとの提案であるが、本来は通常授業において長期的に指導すべきであると考え。

一方で、時代の潮流からもICT教育の推進は必須であり、タブレット端末を活用した習熟度別の学習は学力向上が期待できる。しかし、今回の提案では利用者及び活用期間が限定されるため、現状の課題の解決策としては、疑義が残る。

こうしたことから、目的については理解できるが、それに対応した手段になっていないという印象があるため、実施方法を全面的に再検討していただきたい。

3. 自由意見

- ・参加率が低いこと、講師が不足していること、学習面での自立を指導すること、これらがICT教材の導入により解決できるのか、疑義がある。
- ・抽選により、希望する生徒全員が参加できないということは、市の事業としてあってはならない。
- ・1人1台のタブレット端末を配備するのであれば、ICT教材を全員に配布することも可能なのではないか。予算を投じて専用の教材を作成するのであれば、それを当選した限られた生徒のみに配布することに、大きな疑問がある。
- ・サマースクール等の補習事業と通常授業の、それぞれの役割分担がよく理解できなかったが、ICTの活用については、日々の教育から工夫すべきと考える。まずは、先生も生徒も、タブレット端末の使用に慣れてもらう必要があると思う。
- ・中3チューターは学力向上以外にも、生徒の居場所づくりといった目的もあると思うため、そういう認識も持ってほしい。
- ・既存の事業にICTを活用するという方向性自体は有効であると思う。
- ・既存の事業は継続した上で、今回提案された事業を試行的に追加で実施する方法もあると思う。
- ・学習の自立を指導するためには、その生徒のことをよく理解している必要があり、それはサマースクール等の講師の役割ではなく、学校の本来の役割なのではないか。
- ・ICT教育は時代の要請であり、急速に普及が進むものと思われる。また、生徒1人ひとりの習熟度に合った学習も期待できるため、タブレット端末を使ったICT学習は効果が期待できると思う。
- ・ICTを有効に活用するためには、優れた人材の確保が重要なポイントである。
- ・参加意識を高めるためには、有料の講習とすることも手段の1つではある。
- ・これまでの事業の良かったところもあると思うので、これまでの事業を改善する方向で検討してはどうか。

事業No.3

事業名： 児童相談システム導入事業

担当課： 子ども支援課

1. 判定結果

担当課の要求どおりで良い

2. 事業判定会コメント

関係部署が児童虐待に関する情報を共有することで、迅速な対応が可能となることから、児童相談システムを導入する効果は大きいと考える。

システム導入にあたっては、既存データの引継における誤入力といった人為的なミスにより、対応において支障が生じることのないよう、しっかりとしたシステムの構築体制を組むとともに、関係部署との連携についても、システム導入前から十分な調整を行うことが重要である。

また、システム導入後についても、情報を共有することで満足するのではなく、虐待の予防や発生した後の対応など、導入したシステムを活用して、今以上に連携した対応が可能となることを期待する。

一方で、システム導入に係る業者選定については、使いやすいシステムを選定するため、またコスト的な意味からも、一定の競争が必要と考える。

3. 自由意見

- ・現状を考えれば必要なシステムだと思う。
- ・小さな事案も取りこぼしのないよう活用をしてもらいたい。ただし情報の取り扱いには、十分注意した運用体制を整えてほしい。
- ・児童虐待は命に関わる課題であるため、早期に導入してほしい。
- ・導入後の運用体制について、もう少し検討を進める必要があると感じた。
- ・学童保育や子育て支援センター等、少しでも多くの情報が登録されると良い。
- ・みんなが幸せになれるよう、社会全体で見守ることができる体制であることも大切だと思う。
- ・現在のそれぞれの課が独自で管理している情報から、関係部署が共通して情報をインプットできるシステムを導入する効果は大きいと感じた。
- ・どのような情報を蓄積し、活用するのかについて詰める必要がある。
- ・情報漏洩には、最大限の注意を払ってほしい。
- ・全国統一の項目だけに頼りすぎると、虐待のサインを見落とす可能性があるため、システムに頼りすぎず、引き続きあたたかい目を配ってほしい。
- ・関係機関と情報を共有することは、迅速な対応に不可欠であるため、連携して児童虐待やDVの防止に努めてほしい。
- ・データの入力方法や管理など適切に行えるよう、システムの構築においては、関係機関と調整を密に実施してほしい。

事業No.4

事業名： 子宮頸がん検診未受診者対策事業
(自己採取HPV検査)

担当課： 健康政策課

1. 判定結果

担当課の要求どおりで良い

2. 事業判定会コメント

子宮頸がん検診の受診率は11.2%（令和元年度）と低い状況にあるため、周知方法に工夫が必要であるが、1人でも多くの市民に検診を受けていただくという意味では、担当課から提案のあった自己採取HPV検査は、有効な手段の1つであると考えます。

ただし、子宮頸がん検診の未受診者数の多さからすると、当該事業の実施だけでは十分とはいえないことから、事業の効果測定をした上で、将来的には、今回対象外である20歳代や社会保険加入者に対象を拡大することも、検討していただきたい。

3. 自由意見

- ・がんの予防においては、早期発見が重要である。これは、子宮頸がん以外のがんについても同様であり、早期発見、定期検診の重要性を市民に理解してもらうための取組を継続してほしい。
- ・自己採取HPV検査の実施に加え、予防等の啓発が重要である。
- ・女性のがん検診ではあるが、親から子へ、夫から妻へといった性別を超えた周知もできると、より高いPR効果が得られるのではないかと。
- ・がん検診の重要性の周知という意味では、受診案内にアンケートを同封することも、良いアイデアだと思う。若者にもがんの怖さを知ってもらうための取組は必要と考える。
- ・予算化するためには、この事業の実施によって受診率がどの程度向上するのか等、具体的な効果予測が必要と思うが、一方で、受診者が1人でも増えるのであれば、必要な取組でもあると思う。
- ・自己採取HPV検査の受診見込数250人は、未受診者全体の10%程度であることから、今後、受診率100%に向けた更なる取組を期待したい。
- ・婦人科での検査は抵抗のある方もいるため、自宅のできる検査は受診率向上につながるのでは。
- ・受診申込みにWEB申込を利用することは、良い方法だと思う。

